

検査情報月報 12月号 ▶ 概要版 ◀



Eiちゃん

▶ 横浜市衛生研究所では、所内で実施した試験検査などの結果に解説を加えて、検査情報月報を発行しています。



2022年12月発行

横浜市内のマダニ類調査結果（令和3年度）

- ▶ ダニ媒介感染症は、病原体を保有するダニが吸血の際に病原体を媒介することによって起こり、特に近年では急性重症熱性血小板減少症候群(SFTS)が問題となっています。マダニ類による吸血は、幼虫、若虫、成虫の各ステージで1回ずつ行われ、いずれも病原体を媒介するリスクがあります。
- ▶ SFTSの患者発生が確認される地域は、西日本から徐々に東へ広がっています。また、患者発生報告のない地域のマダニ類からも、SFTSウイルス遺伝子の検出が報告されています。そのため市内に生息するマダニ相を把握するとともに、ウイルス検査が行える体制を整えておく必要があります。

主な結果 ▶ 栄区瀬上市民の森(円海山)及び金沢区富岡総合公園の2地点で調査を行い、採集したマダニ類を顕微鏡下で同定しました。

▶ 調査地点別に、**円海山312個体、富岡総合公園2個体で3種** (キチマダニ、チマダニ属の一種、アカコッコマダニ)合計**314個体**が採集されました。

▶ 捕獲されたマダニ類の一部についてSFTSウイルス遺伝子検査を行いました。が、**SFTSウイルス遺伝子は検出されませんでした**。



キチマダニ成虫

農産物の残留農薬検査結果（令和4年8月～10月）

- ▶ 食品中に残留する農薬等が、人の健康に害を及ぼすことのないよう、厚生労働省は農薬等について残留基準を設定しています。当所では、市内に流通する農産物等に残留する農薬の検査を行っています。

主な結果 ▶ 8月に計10検体、10月に計28検体の検査を行い、8月～10月で総計38検体でした。

▶ 日本なし8検体、こまつな及びぶどう各2検体、きゅうり及びびなす各1検体から延べ41項目の農薬が検出されました。このうち、**こまつな1検体から、テブコナゾールが0.18ppm検出され、一律基準である0.01ppmを超過**していました。

横浜市衛生研究所の紹介動画 公開中 !!

- ▶ 衛生研究所の仕事内容を紹介する動画を作成しました。
- ▶ 職員のキャラクター **エイちゃん** と **ケンくん** が、普段見ることができない研究所の内部をご案内します。ぜひ、ご覧ください！



Kenくん



ようこそ横浜市衛生研究所へ

検索

<https://www.youtube.com/watch?v=dWTuDPSBj8>